

「死生学の諸問題」

参加自由

担当:清水哲郎、山崎浩司(東京大学大学院人文社会系研究科上廣死生学講座)

曜日・時限:木・5-6

場所:215教室(東京大学本郷キャンパス法文1号館)

概要:死生学の諸問題に関して、参加者の自発的な研究発表とそれに基づく討議を行う。参加者は各自関心を持つテーマを選んで、発表を目指して調査・研究を進めることが望ましい。テーマとしては、臨床死生学および臨床倫理学の諸問題が中心となると予想されるが、これに限定されるわけではなく、参加者の自由な発想を期待する。通年で計10回開催予定。開催日は、同じく木・5-6時限目に行われる応用倫理研究3「『生命と価値』論のフロンティア」(担当 竹内整一・島藺進む)と重ならないように調整する。従って本演習・研究会の参加者には、応用倫理研究3にも参加することをお奨めする。具体的授業計画(発表者、テーマ、日時等)は、上廣死生学講座ウェブページに掲載する(<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/dls/index-j.html>)。

予定:

<夏学期>

04月17日 第0回 概要説明

(04月24日 応用倫理研究3 鬼頭秀一「生命倫理と環境倫理を同じ地平で論じるために」)

05月08日 第1回 山本佳世子「高校でいかに生と死を語るか

——教員に対するインタビュー調査を通じて」

(05月22日 応用倫理研究3 出井伸之「日本進化論——2020年に向けた日本のビジョン」)

05月29日 第2回 会田董子「胃瘻という選択肢の意味」

06月12日 第3回 井藤美由紀「死別の悲しみとその彼方」

(06月19日 応用倫理研究3 中村桂子「生命誌の中の人間」)

06月26日 第4回 柳原良江「代理懐胎の問題——身体経験の忘却がひきおこすもの」

(07月03日 応用倫理研究3 樋口範雄「終末期医療と法」)

07月17日 第5回 竹之内裕文「安楽死と鎮静をめぐって」

<冬学期>

10月02日 第6回 林千章「選択的中絶をめぐって

——日本の女性運動と障害者運動の“対立”を考える」

(10月16日 応用倫理研究3 岩瀬哲「緩和ケアとミーム(memetics)」)

11月06日 第7回 土屋敦「「遺伝子情報例外主義」パラダイムの揺らぎの中の遺伝医療

——臨床遺伝専門医調査から見えてくるもの」

(11月13日 応用倫理研究3 見田宗介「軸の時代Ⅰ／軸の時代Ⅱ」公開シンポジウム)

11月20日 第8回 川口有美子「人工呼吸器の取り外しを巡るさまざまな状況を考える」

(12月04日 応用倫理研究3 田沼靖一「死の遺伝子からの問いかけ」)

12月18日 第9回 有田恵「臨床現場と理論をつなぐ研究者——研究者の在り方を考える」

(01月08日 応用倫理研究3 沼野充義「ロシア文学にみる人間の死と生」)

01月15日 第10回 清水哲郎「一新聞記者の病と死——万朝報時代の堺利彦とその交友」

中川恵一「日本人の死生観——調査結果報告」

昨年度の発表:「行為論におけるケア概念」(早川正祐)、「価値の規範性——構成主義に基づく一解釈」(福間聡)、「自由によって形成される信頼関係」(圓増文)、「臓器移植を受けるということはどういうことか」(宮崎裕子)、「コンパニオンアニマルの安楽死について——その現状と問題点」(梶原葉月)、「死生学リカレント教育カリキュラムについて」(福間聡)、「臨床死生学ベーシックの構想」(清水哲郎)、「「佐ける」死の物語の問題性——マンガ『イキガミ』を題材に」(山崎浩司)、「死の臨床における世代継承性の問題——在宅がん患者の「病いの経験」への接近」(田代志門)、「現代の看取りにおける〈お迎え〉体験の語り——在宅ホスピス遺族アンケートから」(諸岡了介)